

日本共産党川棚支部

町議会議員 久保田かずえ

電話(83)23698

日本共産党川棚
支部の見解を紹介
します。

久保田かずえ町議は2015年3月議会で、石木ダム建設問題、石木川沿いにある戦争遺構の整備、学校給食の民間委託問題について一般質問を行いました。

石木ダム・強制収用はやめよ

久保田町議

長崎県は、昨年9月5日、石木ダム建設のための迂回路に必要な用地についての土地の収用裁決申請に踏み切った。そして、収用裁決申請を行った用地以外については、収用手続きを保留していたが、ダム本体工事に必要な区域の保留を解除し11月5日、収用裁決申請に向けた手続きを開始した。今回の保留解除対象地約3万平方メートルには、4世帯の住民の方々の家屋も含まれている。



久保田かずえ町議

ここは、豊かな収穫をもたらす、心豊かな生活、幾世代にもわたって培われてきた絆がある。石木ダム建設計画をこれ以上進めることは、自然と地域を破壊し、県や佐世保市の財政を圧迫するだけである。

町長は「できれば強制収用は避けてほしい」「これからも話し合いでの解決を望んでいることに変わりはない」と言う考えを示された。これからもこの考えに変わりはありませんか。

町長

川棚町の治水対策として、町政の最重要課題の一つとして、推進の立場で取り組んできた。1日でも早く事業に対して理解をいただき、話し合いによって解決していただきたいと、今でも思っている。

現地の川原公民館を知事、市長とともに訪問することができたが、事業計画の質問に終始して、

残念ながら十分な話し合いはできなかった。

久保田町議

公共事業はひとたび計画決定されると、その計画が根本的に見直されたり、中止されたりする例はきわめて少ない。

しかし、4年前尊い命を奪った東日本大震災、いまだに収束していない福島第1原発事故という惨禍を受けて、日本の社会は、これまでの自然を征服しようと言う社会のあり方が反省され、多くの国民は自然と共有する社会を求めている。

人のきずなが見直され、コミュニティの役割が改めて大事だと言うことが考え直されるようになった。

私たち日本共産党が取り組んだアンケートでも強制収用は反対、自然を壊してまで造るべきではない、ダムが必要か再検討すべきと、多くの方が答えている。どう、感じられましたか。(アンケートは昨年9月、10月に実施。全世帯に手配りで届けました)。

町長

審理の最中であり答えることは差し控えたい。裁決決定がなされる前に話し合いによって解決していただければ一番ありがたいと、私の立場からはそう思っている。



石木川を見学する人たち

答えられた数も500人程度であり、全町民の意向と判断しづらい面がある。

久保田町議

町民の方々は、議会と町が推進の立場にあり表立って言えない。アンケートはそういう皆さんの貴重な意見である。

和解に向けて強制収用まで行かないように、なるべく話し合いで解決してほしいと言われたが、町長は和解があり得ると思われるか。

町長

審理の最中であり答えることは差し控えたい。裁決決定がなされる前に話し合いによって解決していただければ一番ありがたいと、私の立場からはそう思っている。

久保田町議

今住んでおられる方たちの土地に思いを寄せられる歴史はご存じだと思ふ。

戦時中に軍の施設を造るために強制的に土地を取り上げられ、戦後荒れ果てた土地を農地よみがえらせ農業で生計を立ててこられた。お金には変えられない土地です。

また、33年前、子供たちやお年寄りを巻き込んで行われた強制測量、この土地にはそういった歴史がある。

先駆者の人たちがそういう目に遭って掘り起こしてきた土地だから、ここから離れたくない気持ちがある。町長はどう感じられたか。

町長

現在県が進めている裁決申請と行政代執行は別物であり、知事においても全く触れていない。したがって、川棚町議会で議論すべきでない。

憲法29条の財産権は尊重しなければならないと思っている。

ただし、第3項には正当な補償のもとに公共の福祉のために用いることができるという規定もある。